

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

Dynamism of Social Context Deciphered by a Linguistic Analysis of Ancient Literature

古代文献の言語分析から読み解く社会背景のダイナミズム

The 1st workshop of the SPIRITS project "Chronological and Geographical Features of Ancient Indian Literature Explored by Data-Driven Science"

—「データ駆動型科学が解き明かす古代インド文献の時空間的特徴」第1回ワークショップ—

2. 主宰責任者氏名

天野恭子(京都大学 白眉センター・人文科学研究所 特定准教授)

3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

2021年2月12日(金)、14:00~19:10、オンライン開催

第1部

14:00 – 14:30 オープニング:

Problems in the Formation of the Vedas, Ancient Indian Religious Texts

「古代インド宗教文献ヴェーダの成立を巡る諸問題」天野恭子(京都大学 白眉センター・人文科学研究所)

14:30 – 15:10

The Possibility of Information Visualization and Data Analysis for Ancient Indian Literature

「古代インド文献を対象とした情報可視化やデータ分析の可能性」夏川浩明(京都大学 学術情報メディアセンター)

15:10 – 15:50

Relationship Among Vedic Schools Deciphered by the Visualization of Mantra Collocation

「マントラ共起関係の可視化から読み解くヴェーダ学派間の関係性」天野恭子(京都大学 白眉センター・人文科学研究所)

15:50 – 16:30

Citation Prediction Using Academic Paper Data and Application for Surveys

「学術論文データを用いた引用数予測とサーベイへの活用」濱地瞬(京都大学 工学研究科)

第2部

16:50 – 17:30

Measuring the Semantic Similarity between the Chapters of Taittirīya Samhita Using a Vector Space Model

「ベクトル空間モデルによる『タイッティリーヤ・サンヒター』の章間類似度比較」京極祐樹(Leipzig University, Indology)

17:30 – 18:10

Dating Vedic Texts with Computational Models: Algorithmic Considerations and Data Selection

Oliver Hellwig (University of Zurich, Department of Comparative Language Science)

18:10 – 18:50

morogram: Background, History, and Purpose of a Tool for East Asian Text Analysis

「morogram: 東アジア文献分析ツールの開発の経緯と目的」師茂樹(花園大学 文学部)

18:50 – 19:10

ディスカッション(司会:夏川浩明)

4. 概要(400字程度)

およそ文献を正しく読む上で、文献成立の背景となる社会への理解は根底となる要件である。しかし古代社会の場合は多くの場合において実態が謎に包まれ、そこでどのような過程によって文献が成立したかも明らかでない。古代インドの宗教文献ヴェーダはそのような例の一つである。このようなヴェーダ文献の言語を分析することで、古代インド社会の動き、地理的な移動や勢力圏の変化を読み解くという課題に、データサイエンスおよび可視化技術を援用することによって取り組むのが、京都大学学内ファンド SPIRITS 採択の学際型プロジェクト「データ駆動型科学が解き明かす古代インド文献の時空間的特徴」であり、本ミーティングはその第1回ワークショップである。本ワークショップでは、プロジェクトメンバーによるそれぞれの担当部分の研究の現状を紹介するとともに、今後取り入れる可能性のある新しい技術を検討した。本ワークショップの重要な目的の一つは、研究テーマおよび方法論に同じ関心を持つ研究者について新しい研究者コミュニティを創設することであったが、世界中から100名を超える参加者を得て議論も活発に行われ、大きな成果を得た。

5. 参加者(こちらは主な参加者のみ。別紙「参加状況」に全員分を記載。)

①学外

幅田弘美(国際仏教学大学院大学教授)
堂山英次郎(大阪大学文学研究科教授)
川村悠人(広島大学人間社会学研究科教授)
真鍋智裕(早稲田大学高等研究所講師)
永崎研宣(一般財団法人人文情報学研究所)
高島淳(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所名誉教授)
Tiziana Pontillo (Cagliari 大学教授)
Maria Piera Candotti (Pisa 大学教授)
Nirmala Kulkarni (Pune 大学教授)

学内

横地優子(文学部教授)
熊谷誠慈(こころの未来研究センター)

所内

井狩弥助(名誉教授)

6. 助成金の使途等

告知に関わる英文翻訳料 29,777 円。

英文チラシデザイン料 82,500 円。

7. その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

本ワークショップはプロジェクトに関わるミーティングの場として第1回目のものであったが、国内外で多くの注目を集め、10か国(イギリス、インド、イタリア、オランダ、スイス、タイ、ドイツ、ポーランド、中国、日本)から117名もの参加を得た。(オンライン開催であったことと、国際研究ミーティング助成により、海外への告知に力を入れることができたのが、その要因だと考えられる。)研究テーマや方法論に同じ関心を持つ研究者が積極的に議論に参加し、情報交換をするとともに、今後も議論や協力をもって互いの研究を発展させる関係の第一歩を築くことができた。データサイエンスの手法を用いた文献の言語分析および文献の成立過程解明について、同様の関心のプロジェクトがドイツで行われていることがわかり、今後協力していけることが大きな成果である。他にも、本ワークショップの講演者が、講演を聴いた研究者から他のシンポジウムの登壇に招待される運びとなるなど、研究者ネットワークの構築で成果を上げたと言える。また、本ワークショップの参

加者のレポートが、人文情報学研究所のメールマガジンで紹介される予定である。第2回、第3回の開催への参加を望む声も早々と届き、今後のプロジェクトの発展への期待も大きいと言える。

今回の7つの講演の発表資料を資料集としてまとめ、その pdf を参加者に配布する予定である。

別紙

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	1	15 (3)	3 ()	3 ()	3 (1)	1 ()	()	()	()	()	()
国立大学	9	25 (2)	()	2 ()	3 ()	7 (2)	()	()	()	()	()
公立大学		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
私立大学	17	18 (6)	()	3 (1)	()	1 (1)	()	()	()	()	()
大学共同利用機関法人		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
独立行政法人等公的研究機関		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
民間機関		3 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
外国機関	32	45 (20)	45 (20)	6 (3)	16 (9)	7 (3)	()	()	()	()	()
その他	4	11 (3)	()	1 (1)	2 (1)	()	()	()	()	()	()
学外 計	62	102	45	12	21	15					
計	63	117 (32)	48 (20)	15 (5)	24 (11)	16 (6)	()	()	()	()	()
【その他の参加状況】											

※本務所属が海外の研究機関である研究者

※()内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※【その他の参加状況】には「その他」区分に計上した、具体的な所属等を記載

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人

新型コロナウイルス感染防止などの行動自粛にともなう共同利用・共同研究拠点企画報告書

	主催責任者	申請者	企画の名称
1	松井 茂	小関隆	連続オンライン・セミナー「2020年の論点：生きるための人文学」(全3回)
2	田辺明生	竹沢泰子	『環太平洋地域における移動と人種』の英語版出版のための翻訳事業
3	小野寺史郎 森川裕貫	石川禎浩	ZOOMを用いたオンライン国際シンポジウム「中国学研究と翻訳」の開催
4	外村中	稲本泰生	国際ワークショップ：中国三教と日本神道の「見える」ものや「見えない」もの